

《幼児教育》

豊かな感性を育むための環境構成と援助の工夫

～園庭の身近な自然や歌などを通して自分なりの表現を楽しむ保育をめざして～

那覇市立松島幼稚園教諭 嶺井奈奈子

＜研究の概要＞

幼児の豊かな感性を育むためには、友達と深くかかわって遊んだり、自然の中で遊ぶ体験が必要だと感じる。そこで、本研究では、園庭での心動かされる身近な自然体験と季節の歌などを通して、幼児の豊かな感性と表現する意欲を育てていった。

幼児の興味関心をとらえ、表現する過程を楽しめるような環境構成を工夫し、幼児のアイデアを引き出しながら遊びを進めたことで、幼児の表現する意欲が高まり、描いたり作ったり、歌ったりなど自分なりの表現を楽しむことができた。

＜研究のイメージ＞



＜研究の成果＞

- 園庭の自然から感じる心を育み、表現したくなるような環境構成を工夫したことで、幼児自ら表現遊びを楽しめるようになり、豊かな感性を育む手立てにつながった。
- 幼児は、自分なりの表現が受け入れられた安心感や喜びを味わうことで、表現への意欲が高まり、友達と相談しながら役割を決めて遊ぶ等、さらに豊かに表現する姿が見られた。

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究構想図	2
IV	研究内容	3
	1 豊かな感性とは	
	2 幼児が自分なりの表現を楽しむための工夫	
	(1) 教師の援助の工夫	
	(2) 環境構成の工夫	
V	保育実践	4
	1 保育計画(5月～7月)	
	2 実践1「雨の中の散歩」	
	(1) 教師の援助と環境構成の工夫	
	(2) 幼児が表現遊びをしている様子	
	(3) 考察	
	3 実践2「あおむし見つけたよ」	5
	(1) 教師の援助と環境構成の工夫	
	(2) 幼児が表現遊びをしている様子	
	(3) 考察	
	4 実践3「あおむし劇場見にきてね」	6
	(1) 教師の援助と環境構成の工夫	
	(2) 幼児が表現遊びをしている様子	
	(3) 考察	
	5 個に応じた援助を通して(個の変容から)	7
VI	研究のまとめ	8
VII	成果と課題	8
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考・引用文献》

《 幼児教育 》

豊かな感性を育むための環境構成と援助の工夫 ～園庭の身近な自然や歌などを通して自分なりの表現を楽しむ保育をめざして～

那覇市立松島幼稚園教諭 嶺井 奈奈子

I テーマ設定の理由

幼児の豊かな感性を育むためには、人とのかかわりや自然の中で遊ぶ体験が必要だと感じる。しかし近年、地域社会での子ども達の生活空間は、都市化によって、身近に自然と触れたり、走ったりできる広場などの遊び場が少なくなっている。そのため、テレビ視聴やゲームなどの室内遊びが増えるなど偏った体験をしている傾向が見られる。

幼稚園教育要領「表現」の内容の取り扱いによると「豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること」と示されている。また、豊かな感性や表現する意欲は「幼児期に自然や人々など身近な環境とかかわる中で自分なりに表現することによって育てられる。」とも記されている。このことから、豊かな感性と表現する意欲を育むためには、十分に遊び込める環境のもとで心が動かされる感動体験が受け止められ、さらに共に分かち合える、温かな教師や仲間の存在も大切であると考えられる。

本学級の幼児の生活実態調査アンケートによると、平日、家での過ごし方は、お絵かきなどの室内遊びが多く、テレビ視聴では平均 90 分ということがわかった。地域や家庭で同年齢の友達と深く関わって遊んだり、自然体験をする機会が少ない様子が見られる。この実態をふまえ、幼稚園生活の中で、戸外遊びの時間を十分に取って、友達と触れ合って遊んだり、自然体験できる環境を充実させていくことが必要である。本学級の幼児の友達関係や遊びを見てみると、気の合う友達と好きな遊びを楽しんでいるが、遊びに持続性がなく次々と遊びを変えていったり、遊びや友達関係に広がりが見られないなどの様子が見られる。戸外遊びにおいても身体を動かすことは、楽しんでいるが、身近な自然に十分にかかわり、新たな発見や探求していく体験が少ないように感じられる。また、これまでの私自身の保育を振り返ってみると、幼児の自由な発想や幼児の表現したい意欲を育むための援助が不十分であったり、歌やリズム遊びでは一斉指導的な方法が多かったと感じる。

そこで、本研究では、園庭での心動かされる身近な自然体験と季節の歌などを通して幼児の豊かな感性と表現する意欲を育んでいきたい。また、日常生活の中での幼児の興味関心をとらえ、幼児が表現する過程を楽しめるような教師の援助、環境構成の工夫を行い、幼児が自分なりの表現を楽しむ保育をめざしていきたいと考える。

II 研究目標

園庭の身近な自然や季節の歌などを通して豊かな感性を育み、自分なりに表現を楽しむための援助と環境構成の工夫について実践研究する。

Ⅲ 研究構想図

<p>教育関係法規等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法・教育基本法・学校教育法 ・幼稚園教育要領 ・本県の教育施策 ・本市の教育行政ビジョン 	<p>幼稚園教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な子 ・思いやりのある子 ・よく考える子 	<p>那覇市の幼稚園の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開していけるように、遊びを通しての総合的な指導の充実を図る。
<p>幼稚園教育要領「表現」</p> <p>「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな表現力を養い、創造性を豊かにする。」</p>	<p>めざす幼児像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや考えたことを自分なりに楽しんで表現する子 ・友達とのかかわりを楽しむ子。 	<p>幼児の実態（本学級）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の遊びに入れない子がいる。 ・季節の歌やわらべ歌に馴染みがない。 ・イメージやアイデアがあまりなく遊びに広がりが見られない。
<p>研究テーマ</p> <p>豊かな感性を育むための環境構成と援助の工夫</p> <p>～園庭の身近な自然や歌などを通して自分なりの表現を楽しむ保育をめざす～</p>		
<p>研究目標</p> <p>園庭の身近な自然や季節の歌などを通して自分なりに表現を楽しむための援助と環境構成の工夫について実践研究する。</p>		
<p>研究方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚園教育要領を踏まえ理論研究を行い、幼児理解を深める。 2 園庭の身近な自然とのかかわりや季節の歌などを通して、豊かな感性を育み、自分なりに表現を楽しむための援助と環境構成の工夫について考える。 3 保育実践を通して、幼児の変容を考察し、幼児の実態の理解や読み取りが適切であったかを見直し、改善していきながら研究を深める。 		
<p>実践 1</p> <p>「雨の中の散歩」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨の中の散歩から身体表現遊びを楽しむ。 	<p>実践 2</p> <p>「あおむし見つけたよ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌からイメージを広げ、表現する過程を楽しむ。 	<p>実践 3</p> <p>「あおむし劇場見に来てね」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的を持ち自分なりの表現を楽しむ。

Ⅳ 研究内容

1 豊かな感性とは

「『感性』とは感じることをいうのではなく、さまざまな感覚器で身近なことを感じ、感じたことをもとに考えたり思ったりする、その考えや思いを具体的な行動に移すことである。」と平田(2013)は述べている。

また、「【感じ】【考え】【行動する】を繰り返すことによって、イメージを広げたり考えたりを深め、豊かな感性が育まれていく」(図1)とも述べている。

このことから、豊かな感性は、心が揺さぶられるような出来事に出会い、そこから受けた新たな刺激やこれまで幼児の内面にため込まれた情報をもとに、作ったり、描いたりなど自分の思いや考えを表現し、さらに内面に向き合い考えを深め、自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことで育てられると考える。

また、幼児の感性を育むために、十分に遊びこめる環境のもとで、心動かされる感動体験を受け止め分かち合える温かな教師や仲間存在も大切であると考えられる。

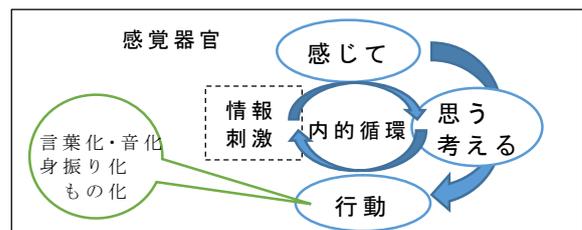


図1 「内的循環論」平田説【引用】

2 幼児が自分なりの表現を楽しむための工夫

幼児の素朴な気づきや表現を大切に、幼児の表現する意欲を育てていきたいと考える。黒川(1991)は「本来の表現は、専門的な特別な活動ではない。表現の自発性、自主性、日常性に目を向ける必要がある」と述べ、「教師の存在は、幼児の表現活動の方向を左右する」と述べている。このことから、幼児が自分なりの表現を楽しむようになるためには、教師は日常の幼児の行動から内面を理解していくことが大切であると考える。そのことにより、幼児が何に心を動かし、何を表そうとしているのかを受け止めながら、幼児の表現する喜びを十分味わえるようにしていく

表1 5つの視点

そこで本研究では、幼児が何を表現したかという結果だけではなく、どのように表現していくか、表現していったかという【表現する過程】を丁寧に援助し工夫していきたいと考える。また、幼児の表現をとらえるための視点を(表1)のようにまとめ実践を行った。

5つの視点
【心を動かす】出来事に触れる
友達や教師との【感動を共有】する
【イメージ】を膨らませる
【表現する過程】を楽しむ
【友達の表現に触れる】

(1) 教師の援助の工夫

幼児が自分なりの表現を楽しむようになるためには、幼児のありのままの表現を温かく受け止めていくことによって、表現の意欲が高まっていくと考える。黒川(1991)は、「教師の励ましや共感、直接的な援助などにより、幼児の表現意欲は刺激され、幼児の豊かな表現は引き出されていく」と述べている。幼児が園生活の中で自分なりの表現を

表2 援助の工夫

楽しむための援助を(表2)にまとめた。本研究では、身近な園庭の自然から幼児の興味関心をとらえ、幼児の五感に訴えるような言葉かけをしたり、季節の歌を取り入れ、幼児の豊かな感性や表現が育まれていくように研究を進めていく。

教師の援助の視点
一人一人の表現を受け止める
幼児の興味関心をとらえる
幼児を見守る・共感する
伝える。他の子どもにも知らせる
子どもの表現が広がるようなアイデアを提案する

(2) 環境構成の工夫

「表現する意欲を高める環境作りで大切なことは、単に物的環境を整えるばかりではなく空間、時間、もの、教師とのかかわり合いが相互に絡んでいくことが重要」と無藤(2007)は述べている。無藤を参考にまとめた(表3)。本研究では、様々な出会いを想定

表3 表現を育むための環境構成

環境の視点	具体的ななかかわりの例
時間	・意欲的に遊べる十分な時間の保障 ・1日の生活の流れを切断しない
空間	・子どもにとって使い勝手のよい空間 ・片付けがしやすいように整えられている
もの	・幼児の発達を見通し幼児の興味を引く ・表現するための教材、素材を準備
人間関係	・教師との信頼関係を積み重ねる
雰囲気	・主体的に楽しく表現できる園の雰囲気 ・のびのびと表現できるスペースと雰囲気

し、園庭に季節の草花や蝶の食草、季節の野菜を植え、幼児の興味・関心が深まるように、絵本の掲示等の環境を整えた。また、季節の歌も既製のものではなく、ピアノ伴奏を録音したカセットテープを準備し、教師とのつながりを保ちながら、自分たちで操作しやすい環境を作っていきたいと考える。表3を参考にし、幼児の実態を把握しながら常に環境を見直していくことで表現する過程や自分なりの表現を楽しめるようにしていきたいと考える。

V 保育実践

1 保育計画(5月～7月)

実践		◎ねらい
実践1	雨の中の散歩	◎雨の中を散歩し、梅雨ならではの遊びを楽しむ。 ◎音やリズムに合わせて体を動かす楽しさや友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
実践2	あおむし見つけたよ	◎幼虫に興味をもち親しみを持って接する。 ◎ペープサートや劇台などアイデアを出し合って遊びに必要な物を作る。
実践3	あおむし劇場見に来てね	◎夏ならではの遊びを思いきり楽しむ。 ◎自分の思いや考えを出しながら、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

2 実践1「雨の中の散歩」(5月中旬)

(1) 教師の援助と環境構成

雨季ならではの遊びを楽しみ、わくわく感を味わってほしいと思い、クラス全員で『雨の中の散歩』に出かけた。【心が動く】自然との出会いができるよう雨に関する歌を歌ったり、絵本を読んだり雨に興味をもてるようにした。また、雨の音や雨の中の生き物に気づいたり、幼児が身体表現しやすいように雨や生き物の様子を具体的な言葉で伝える等の工夫をした。また、友達や教師と楽しい時間を【共有】できるよう、クラスのみんなで遊ぶ場を設定し身体表現なども楽しんだ。



(2) 幼児が表現遊びをしている様子

	感性・表現を高めるための教師の援助	幼児の姿	言葉	身体
言葉による表現	<p>雨ってどんな音？聞いてごらん。</p> <p>かたつむりの角、つんつんしているね</p>	<p>耳をすませて</p> <p>C児 かたつむりの角を触ったらひっこんで、また出てきたよ！</p>	<p>A児 びちゃ、びちゃって音がする</p> <p>B児 ぼちゃ、ぼちゃって音もする</p> <p>D児 あっ、ほんとだ！</p> <p>E児 おもしろ～い！</p>	<p>みんな来て雨の音おもしろいよ！</p> <p>お部屋でかたつむり飼いたいな</p>
ピアノに合わせて身体表現	<p>雨の中を散歩してみよう♪ ♪びちゃ、びちゃ ぼちゃ、ぼちゃ</p> <p>葉っぱにカタツムリがいるよ。角出している</p>	<p>びちゃん、ぼちゃんとリズムをとって、歩いたり、スキップをしたり、走ったりする。</p> <p>指で角を作って歩いたり、床に這って進んだりする。</p>		<p>次の音楽は何かなくわくわくどきどき感！</p>
歌う場面	<p>手で種を作っごらん</p> <p>雨が降ってきたよ！</p>	<p>今、僕、土の中にいるんだよ</p> <p>わー、きもちいい ♪あめあめふれふれ母さんが</p>		<p>思いを込めて歌う姿</p>

(3) 考察

実践1では、『雨の中の散歩』や『朝顔の生長』など【心を動かす】自然との出会いから、楽しさ、不思議さ、成長の喜びなどの感情が幼児の歌や表情から見る事ができた。また、幼児が【イメージ】しやすいような具体的な言葉かけや幼児の動きに合わせたピアノ伴奏をすることで、リズムカルに身体表現をする楽しさを味わう事ができた。しかし、一斉的な活動では、一人一人の思いや考え

とらえにくく、幼児の自由な表現をうまく引き出すことができなかった。

そこで実践2では、友達やものとじっくりかかわれる時間と場所を整え、【イメージ】を出し合い【表現する過程を楽しめる】ような遊びを展開していきたい。

3 実践2「あおむし見つけたよ」（6月下旬～7月上旬）

(1) 教師の援助と環境構成の工夫

6月下旬になると、気の合う仲間と夢中になって幼虫探しをしている姿が見られる。教師は、幼虫にもっと親しみを感じてほしいと思い、幼児と一緒に幼虫を探したり、とってきた幼虫の名前を考えたり、絵の具を使って幼虫の絵を描いたり等の遊びを楽しんだ。

また、室内外と区別することなく遊び込める環境作りとして、カセットデッキを教室近くの園庭に出した。そして、幼児がよく知っているストーリー性のある曲『おかみと7ひきの子やぎ』や『はらぺこあおむし』のカセットテープ、季節の歌をピアノ伴奏した録音テープ等を用意し、幼児が自由に好きな歌を聞けるようにした。実践2を進めていく中で、描きたい、作りたい意欲も高まってきたので、遊びに必要なものがすぐに製作できるように『製作コーナー』を『歌コーナー』の側に作り、【表現する過程】を楽しめるように配慮した。



(2) 幼児が表現遊びをしている様子

	表現への意欲を高めるための 教師の工夫	幼児の言葉
1 日 目	外で踊っても楽しそう！ 一緒に外で踊ろうよ	F児H児 やりたいな！ G児 もっとやりたい！
	歌のカセットテープも もってこよう	C児 あっ、歌の絵本が部屋にあるよ。 持ってくるね。ちょっと待ってて
	シャボン玉も飛んでステ キだね。♪しゃぼん玉とんだ	男児 本当のシャボン 玉飛ばそう！ 私も持ってくる
2 日 目	誕生会の人形劇に出てき た、かわいい子やぎ達連 れてきたよ！	K児 子やぎたち、かわいい！ I児 人形劇の台がないよ。 どこでやればいいのか
	何かいい方法はないかな？	J児 テーブル持ってこよう K児 一緒に 運ぶよ！
3 日 7 日	みんなが好きな幼虫を 先生が作ってみたよ。 ♪はらぺこあおむしの歌	H児 サナギはないの？サナギとチョウがないから手でやる
	画用紙とクレヨンがあるよ	遊びの停滞！ H児 画用紙でサナギが作れるね K児 ふとっちょ青虫、絵本見て作ろう
	 歌コーナーの側に 製作コーナーを設置	A児 かわいい人形台もあつたらいいな A児 カーテンもつけよう！ 先生、かわいい布ある？
		M児 名前は『青虫劇場』にしよう N児 見る人がいたらいいな！

(3) 考察

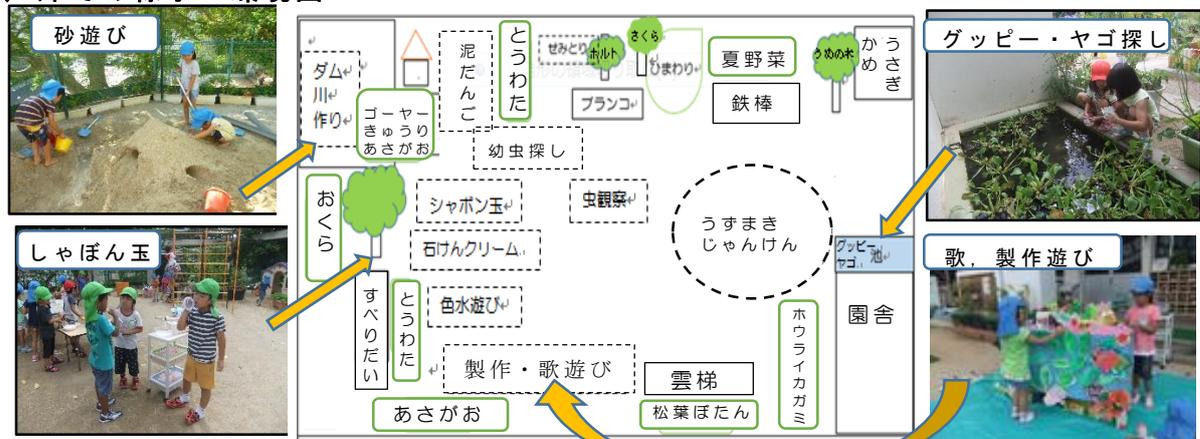
実践2の当初では、遊びを楽しもうとしているが、遊びに広がりや深まりがなく、行きづまりが感じられた。そこで、教師が画用紙やクレヨン、割り箸やモールなどの教材やアイデアを提案した。すると自分のイメージで、はらぺこあおむしの絵を描く子、ペープサートを作る子、少人数でいろいろなアイデアを出し合って描いたり、演じたりする子などそれぞれが自分なりの表現を楽しんでいる姿が見られた。また、「誰も見る人がいないから誰か呼んでこよう！」と幼児の言葉も聞かれ、表現する過程を楽しむことで誰かに見せたいという意欲も高まってきた。そこで、「誰かに見せたい」という幼児の思いを実現できるように、実践3では、幼児のアイデアを引き出し、【友達表現に触れる】場作りを工夫していきたい。

4 実践3「あおむし劇場見にきてね」(7月中旬)

(1) 教師の援助と環境構成の工夫

誰かに見せたいという思いはあるものの、どのようにしたらよいかわからない幼児に、教師が「どうしたら、あおむし劇場を見に来てくれるかな?」と問いかけた。すると「ポスターを作ったらいいんじゃない?」「大きな声で呼ぼう」など次々に幼児からアイデアが出てきた。教師は、「いい考えだね」と共感し、周りにいる幼児へもそのアイデアを伝えた。また、友達の表現に触れられるように椅子を用意したり、必要な教材などを幼児と一緒に準備しながら、より表現を楽しめるように援助した。

戸外での様子・環境図



(2) 幼児が表現している様子

実践3 1日目

表現への意欲を高めるための教師の工夫	幼児の言葉
どうしたら、みんなが見に来てくれるかな。	G児 ポスターを作ったらいいんじゃない
いい考えだね!	P児 来てくれるように大きな声で呼ぼう!
	H児 手紙を書いたらみんな来てくれるよ
『あおむし劇場』見に来てくれたら何を見せたいのかな	P児 夏の歌を歌いたいな
いろんな歌をお客さんに見せたいようだけど、順番はどうするのかな。	B児 はらぺこあおむしもしたいな
	G児 発表会の時みたいにプログラムを作ったらいいんじゃない?

数名 いいね! みんなで考えよう

実践3 (本時)

	幼児の姿	教師の援助
8:45	○戸外での好きな遊び 色水, 石鹸クリーム作り, 砂遊び, せみ取り	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 歌・製作遊び ・『しゃぼん玉』『せみ』などを歌ったり, 『はらぺこあおむし』のペープサート, 『おおかみと7匹のこやぎ』の軍手人形遊びなど, 人に見てもらふことで, 満足感を味わっている。 </div>
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・生き生きと表現している幼児の姿を見守りながら, 必要に応じて言葉をかけていく。 </div>
		
9:45	○片付け・室内へ戻る	
10:00	○クラスの人々と一緒に過ごす	
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌, わらべ歌遊びを楽しむ ・ふりかえり ・遊びで楽しかったことや気づいたことを話す。 ・「明日も続きの遊びがしたい」という期待感をもつ。 	

幼児が表現している様子

教師の言葉	幼児の言葉
	H児 今日もあおむし劇場やろうね。
あおむし劇場楽しみだね!	数名 早くチケット作りたいから, 自分たちで道具出すね!
	H児 みんなー, チケットに『あおむしげきじょう』って書いてね
ステキなチケットだね。	みんなにチケット配ってくるね
	まだ, 準備できていませんカーテン閉めまーす
	準備できたよ!
	司会者したい人!
司会者さんお願いします。	数名 はい
	これからはらぺこ青虫を始めます。♪はらぺこ青虫
	次は, 何の曲にする?

(3) 考察

「ポスターを作ったらいいんじゃない?」「大きな声で呼ぼう」などの幼児の発した言葉に教師が共感し認めたことで, 幼児は自分なりの表現が受け止められた安心感や喜びを味わった。また, 「あおむし劇場にお客さんを呼びたい」という共通の目的を持ち, 遊びを楽しくするために, チケット作りや司会など, 友達と相談しながら相互に役割を決めて遊ぶ姿が見られた。

5 個の変容

抽出児の実践前と後の変容をまとめた。

表4 抽出児の変容

	実践前	教師の援助	幼児の変容
A児	<ul style="list-style-type: none"> ○製作遊びが好きだが, <u>周りとのかかわりよりも自分の好きな遊びに集中していることが多い。</u> ○自分のタオルに依存し, 手放さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作が得意なので, 本児の作った物を帰りの会でクラス全員の前で伝えるなどをして, 自信を持たせ<u>周りとの遊びや友達関係が<u>つながる</u>ようにした。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践2では, 歌遊びのペープサート台を作ることに興味を示し, 「カーテンをつけよう」「明日もペープサート台を作りたい」と, <u>友だちと一緒に意欲的に製作する姿が見られた。</u> ・蝶を工夫して作ることで, <u>演じてみたいという意欲にもつながり, 恥ずかしがることなく, 演じる楽しさも味わっていた。</u>

V 研究のまとめ

幼児の豊かな感性を育み表現を楽しむための教師の援助と環境構成の工夫を全3回の実践を行うことで幼児の変容を見ることができた。

表5 幼児の変容

	幼児の実態	手立て	幼児の変容
実践1	<p>○ほとんどの子が好きな遊びを楽しんでいるが教師の側から離れない子いる</p>  <p>雨の中の散歩</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が安心して過ごせるよう信頼関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師から離れて好きな遊びを見つけ遊ぶ時間が増えてきた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師と楽しい時間を共有できるよう、クラスで遊ぶ場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊んだことを普段の遊びの中で再現し、楽しむ姿が見られた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・雨や蛙等をイメージしやすいように具体的な言葉かけやピアノ伴奏をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌う楽しさを味わったり、リズムカルに身体表現を楽しむ姿が見られた。
実践2	<p>○夢中になって幼虫探しをしている。</p> <p>○遊びを楽しもうとしているが深まりが見られない。</p>  <p>あおむし見つけたよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫に名前を付けたり、虫の絵を描いたり、虫の変化に気付く葉かけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察ケースを覗き「もう餌がないよ」「蛹が金ぴかになっている」など変化に気づくようになった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児がイメージを持ちやすい、ストーリーのある歌を用いたり、教材教具を提示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児自ら「こうしたい」とアイデアを出しペープサートや人形劇の台を工夫して作る姿が見られ、表現する過程を楽しめた。
実践3	<p>○誰かに見せたい意欲がある。</p> <p>○自分なりの表現が見られるようになった。</p>  <p>あおむし劇場見に来てね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしたら見に来てくれるかな」と問いかけ、幼児のアイデアを引き出し、実現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポスターを作ったらいいんじゃない？」など、遊びを楽しむためにいろいろなアイデアが出た。 ・友達と相互に役割を決めて遊ぶ姿が見られた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの様子を周囲の子ども達に伝えたり、場作りをしたり、帰りの会で紹介したりして遊びが広がるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『あおむし劇場』の言葉から「お客さんに見せたい」という幼児同士の共通の目的になり、これまでの断片的な遊びから目的をもった遊びへと変化した。

VI 成果と課題

1 成果

- (1) 園庭の自然から感じる心を育み、表現したくなるような環境構成を工夫したことで、幼児自ら表現遊びを楽しめるようになり、豊かな感性を育む手立てにつながった。
- (2) 幼児は、自分なりの表現が受け入れられた安心感や喜びを味わうことで、表現への意欲が高まり、友達と相談しながら役割を決めて遊ぶ等、さらに豊かに表現する姿が見られた。

2 課題

- (1) 幼児が感じている心の動きを受け止め、共感していけるように、教師自身も豊かな感性をもてるようにしていく必要がある。
- (2) 幼児にとって、感性が育つ体験を積み重ねていけるような保育の工夫がさらに必要である。

《参考文献・引用文献》

『幼稚園教育要領解説』	文部科学省	フレーベル館	2008
『保育内容「表現」』	平田智久・小林紀子・砂上史子	ミネルヴァ書房	2010
『事例で学ぶ保育内容 領域 表現』	無籐隆・浜口順子	萌文書林	2007